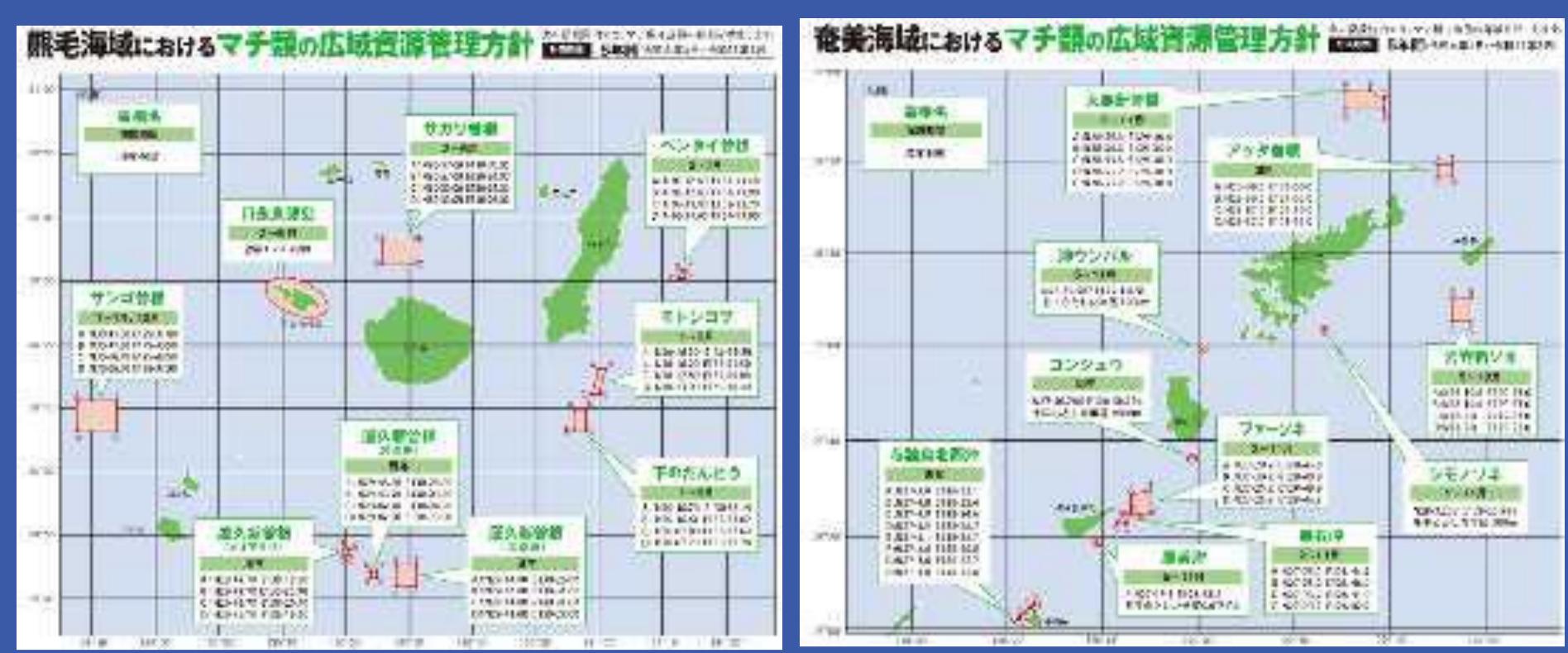


マチ類資源管理の取り組み

水産技術開発センター資源管理部
国立研究開発法人 水産研究・教育機構
(共同研究)



概要
マチ類とは、南西諸島海域に分布するフエダイ科、ムツ科及びハチビキ科の総称で、特に漁業者が重要魚種としているのはフエダイ科の「アオダイ」、「ハマダイ」、「ヒメダイ」及び「オオヒメ」の4魚種（マチ類4種）。しかしながら、漁獲量は過去50年で減少傾向であり、適切な資源管理を実施するために移動回遊等の生態の把握が求められている。

[マチ類4種]



①アオダイ



②ハマダイ



③ヒメダイ



④オオヒメ

[漁獲量は過去50年で減少傾向]

漁船・漁業者の減少もあるが、資源の減少を懸念。

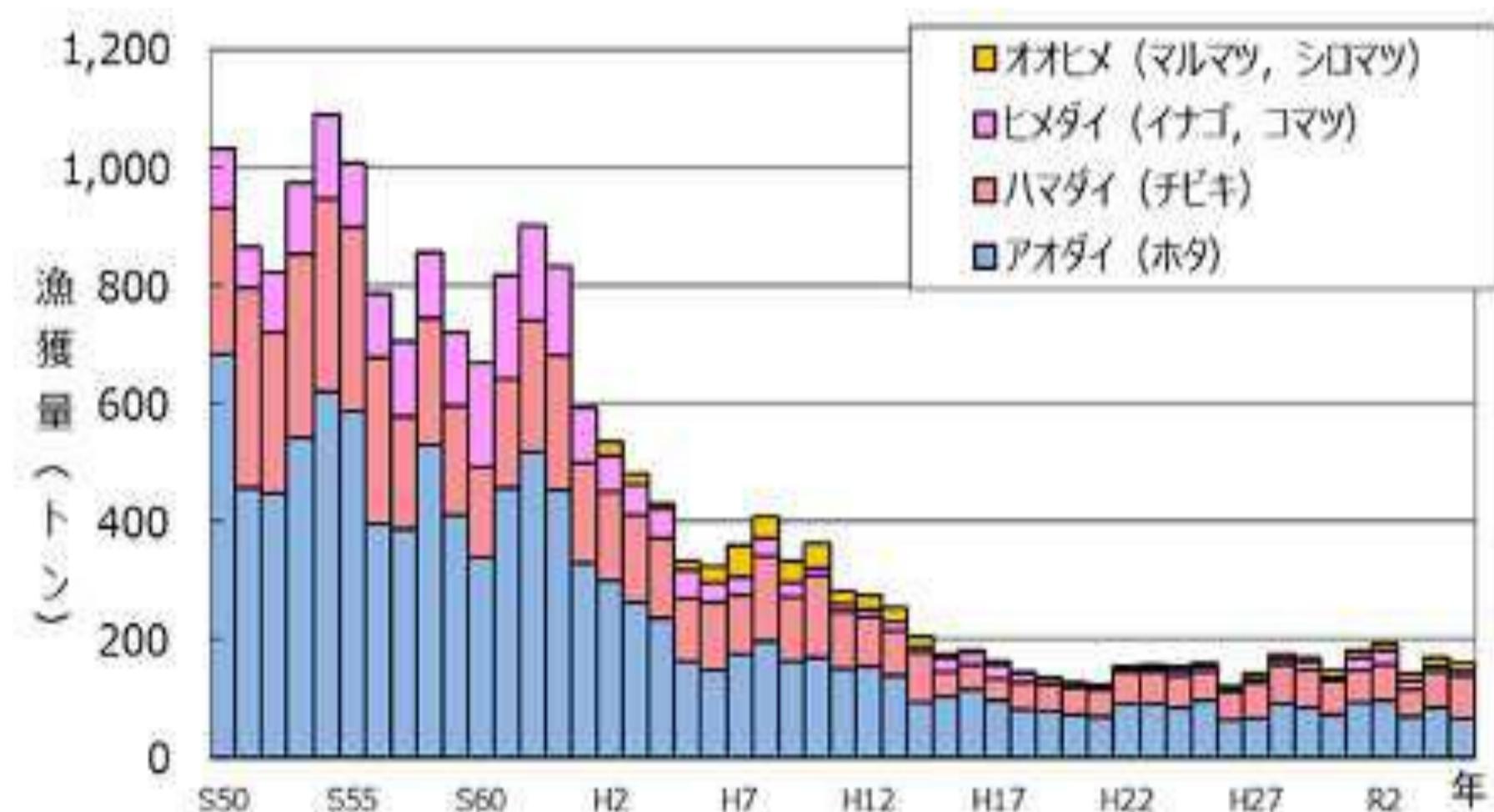


図1 鹿児島市中央卸売市場マチ類水揚量推移

[マチ類広域資源管理方針の概要]

平成17年度から資源回復計画（現：広域資源管理方針）に基づく取組を漁業者、県、研究機関及び水産庁で連携・協力して実施。

表1 保護区設定漁場におけるマチ類平均漁獲サイズ

漁場	アオダイ		ハマダイ		ヒメダイ		オオヒメ	
	平均尾叉長(cm) H16・17 R5・R6	増減率	平均尾叉長(cm) H16・17 R5・R6	増減率	平均尾叉長(cm) H16・17 R5・R6	増減率	平均尾叉長(cm) H16・17 R5・R6	増減率
田之脇曾根	32.8	+3%	42.5	-10%	31.3	+4%	33.3	+17%
下のだんとう	31.9	+6%	32.1	+24%	31.6	+3%	34.6	+23%
ベンタイ曾根	-	-	36.7	+27%	-	-	-	-
屋久新曾根	34.1	+0%	40.5	+21%	34.2	-2%	36.1	-
アツタ曾根	28.9	+21%	40.4	-3%	30.9	+5%	37.1	+6%
大島新曾根	35.9	+4%	44.9	-1%	-	-	-	-
フーズネ	35.8	+11%	40.0	+9%	32.1	+2%	-	-
屋者沖	33.7	+9%	32.6	+18%	29.1	+2%	37.9	-

[標識放流調査・再捕実績]

漁獲した魚に標識を付けて放流し、再度漁獲した際に標識魚の移動経路や成長過程、資源量などを調べる→アオダイ12尾、ヒメダイ1尾、オオヒメ3尾を採捕



図2 放流手順

いちおし
ハマダイの一部を除き、4種の保護区での漁獲サイズが向上。
これまでに奄美海域及び熊毛海域で、アオダイ延べ1,593尾、ヒメダイ延べ64尾、オオヒメ延べ79尾、ハマダイ延べ290尾を標識放流。再捕率向上が課題。



キーワード

マチ類、アオダイ、ハマダイ、ヒメダイ、オオヒメ、標識放流、広域資源管理

